

## 研究課題「<sup>123</sup>I 製剤脳血流 SPECT の標準化と正常データベースに関する多施設研究」に関する情報公開

### 1. 研究の対象

2012年1月1日～2019年3月31日の期間において、当院で認知症精査のために脳核医学検査を受けられた方

### 2. 研究目的・方法・研究期間

マルチスライス CT や高磁場 MRI の導入により、脳の形態に関する画像診断は大きく進歩しました。一方、シングルフォトン・エミッション CT (SPECT) やポジトロン・エミッション・トモグラフィ (PET) を利用した脳核医学検査は、放射性同位元素 (ラジオアイソトープ) で標識した化合物 (トレーサー) を体内に注入し、そのトレーサーの特性に基づいて、血流や代謝、神経伝達機能など、脳の様々な機能の測定を行うことができる検査です。近年では、SPECT-CT 装置や PET-CT 装置などのハイブリッド装置が導入されたことで、形態と機能を融合した画像が得られるようになり、その疾病診断に大きく寄与しています。

脳核医学検査は、当院においても、虚血性脳障害や認知症、精神神経疾患など、日常的に多くの患者に対して行われています。脳梗塞、一過性脳虚血発作などの虚血性脳障害においては、SPECT における脳循環予備脳の測定が、その病態診断のみならず、治療方針の決定および効果判定に重要な役割を有しています。また認知症においては、アルツハイマー病やレビー小体型認知症をはじめとした変性性認知症の早期診断や鑑別診断、軽度認知障害からアルツハイマー病への移行予測などに用いられており、正常データベースを利用した統計学的画像解析が日常臨床にも普及したことで、それらの診断精度が向上しています。

しかしながら、多くの施設で核医学検査が受けられるようになった反面、多種の装置が普及していることで、装置や収集方法・解析方法の相違などによる視覚的あるいは定量的な画像データの施設間差・不均一性が生じています。このような問題に対して、研究代表者らは、多施設で協力し、標準化を目指す活動・研究を行っています。本研究では、標準化した方法で構築された統計解析用の標準正常データベースの臨床的利用価値について多施設で検討します。

尚、研究期間は実施承認日から 2020 年 3 月 31 日までとします。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・ 症例の年齢・性別・臨床診断名・MMSE スコア、その他神経心理検査所見
- ・ 脳血流 SPECT データおよび 3D-SSP 統計解析結果

#### 4. 外部への試料・情報の提供

研究代表施設へのデータの提供は、匿名化処理を施した後、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、本学の研究責任者が保管・管理します。

#### 5. 研究組織

藤田保健衛生大学医学部 放射線医学教室

教授 外山 宏、講師 乾 好貴、助教 太田誠一郎

藤田保健衛生大学医療科学部 放射線学科 教授 市原 隆

国立長寿医療研究センター 放射線診療部 木澤 剛・加藤隆司・伊藤健吾

三重大学医学部附属病院 放射線診断科 講師 市川泰崇

福井大学高エネルギー医学研究センター 教授 岡沢秀彦

まつかげシニアホスピタル 精神科 山崎孝浩

木沢記念病院 放射線科 西堀弘記

名古屋大学大学院医学系研究科 医療技術学専攻 医用量子科学講座 教授 加藤克彦

#### 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

愛知県名古屋市東区大幸南一丁目1番20号

TEL：052-719-1590

名古屋大学大学院医学系研究科 医療技術学専攻 医用量子科学講座 教授 加藤克彦  
(研究責任者)

研究代表者：

藤田保健衛生大学医学部 放射線医学教室 教授 外山 宏